
第10期三田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画に向けた
アンケート結果
(主要項目速報版)

令和8年3月17日

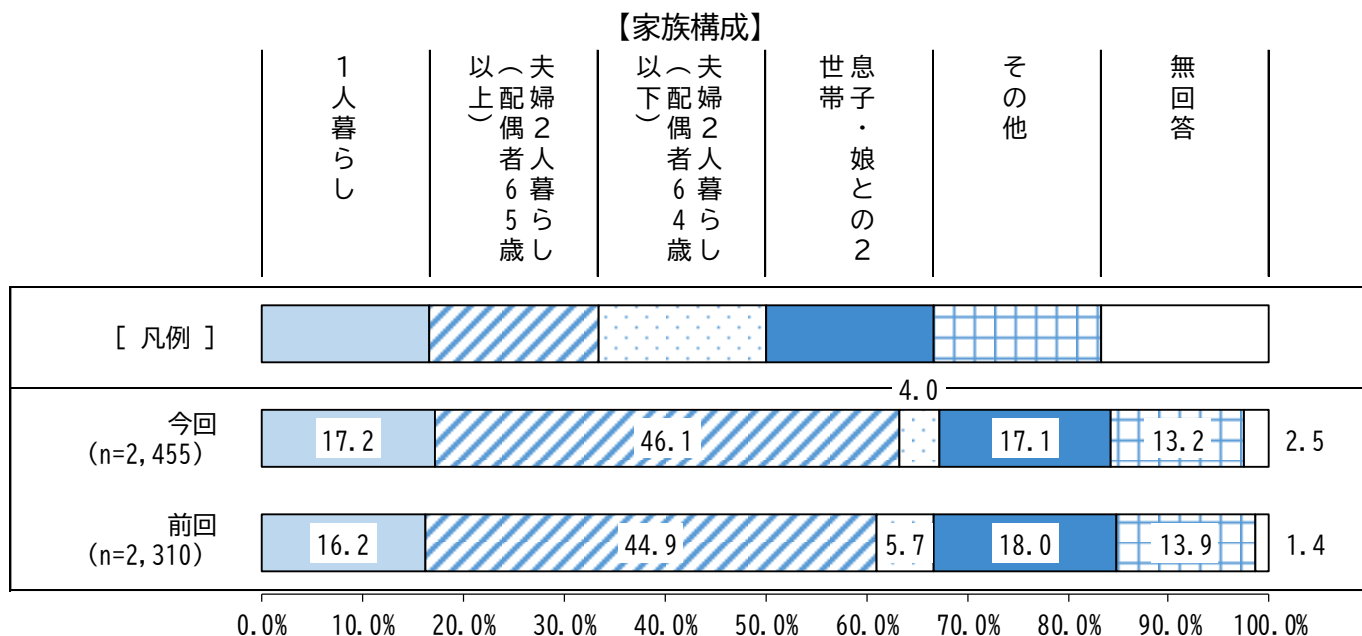
(1) 介護予防・日常生活圏域二一ズ調査

【調査概要】

対象者	三田市内に住む高齢者 3,300 名 (要介護認定を受けていない方、及び要支援 1・2の方から無作為抽出)
実施期間	令和 8 年 1 月 2 1 日 (水) ~ 令和 8 年 2 月 1 2 日 (木)
実施方法	郵送配布、郵送回収または WEB 回収
回収状況	配布数 : 3,300 件、有効回収数 : 2,455 件 (郵送 : 2,113 件、WEB : 342 件)、 有効回答率 : 74.4%

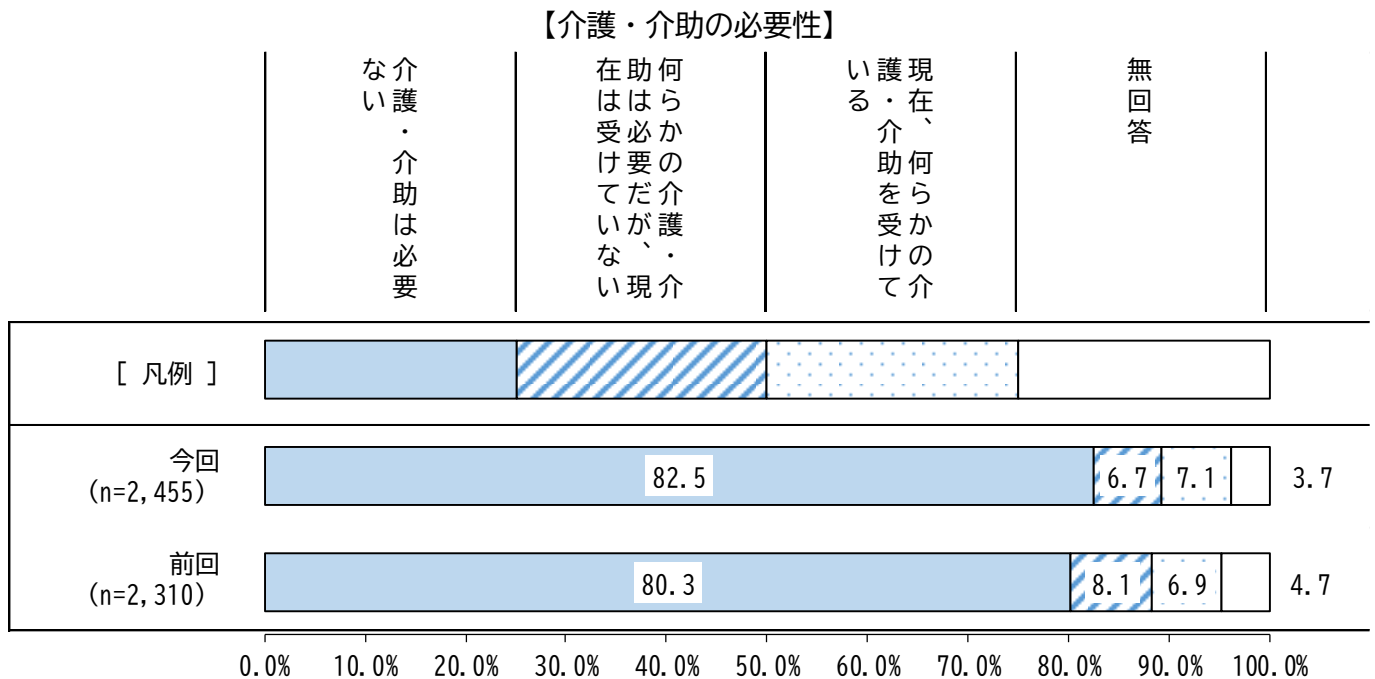
① 家族構成

「一人暮らし」「夫婦 2 人暮らし (配偶者 65 歳以上)」を合わせた約 6 割が高齢者のみの世帯となっており、前回調査時よりも比率は上昇しています。



② 介護・介助の必要性

介護・介助は必要ない人が8割を超えており、前回よりも上昇しています。また、現在、何らかの介護・介助を受けている人の比率もわずかですが上昇しています。



③ 介護・介助が必要になった主な原因

「高齢による衰弱」が22.1%で最も多く、前回よりも比率が上昇しています。次いで「骨折・転倒」「心臓病」となっていますが、順位は前回から逆転しています。

<今回結果>

全体	原因 (MA)	割合
1	高齢による衰弱	22.1
2	骨折・転倒	16.5
3	心臓病	14.4

(n=340)

<前回結果>

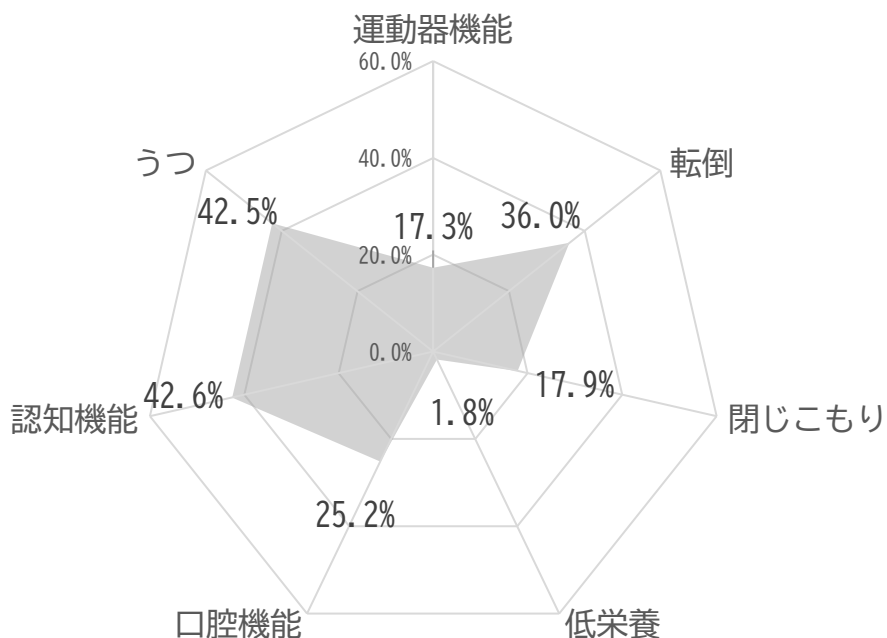
全体	原因 (MA)	割合
1	高齢による衰弱	20.7
2	心臓病	14.1
3	骨折・転倒	12.7

(n=347)

④生活機能の低下リスク該当者

前回調査に比べて、閉じこもりや認知機能、うつに関するリスク該当者の割合は低下していますが、転倒のリスク該当者の割合は上昇しています。

【生活機能の低下リスク該当者】



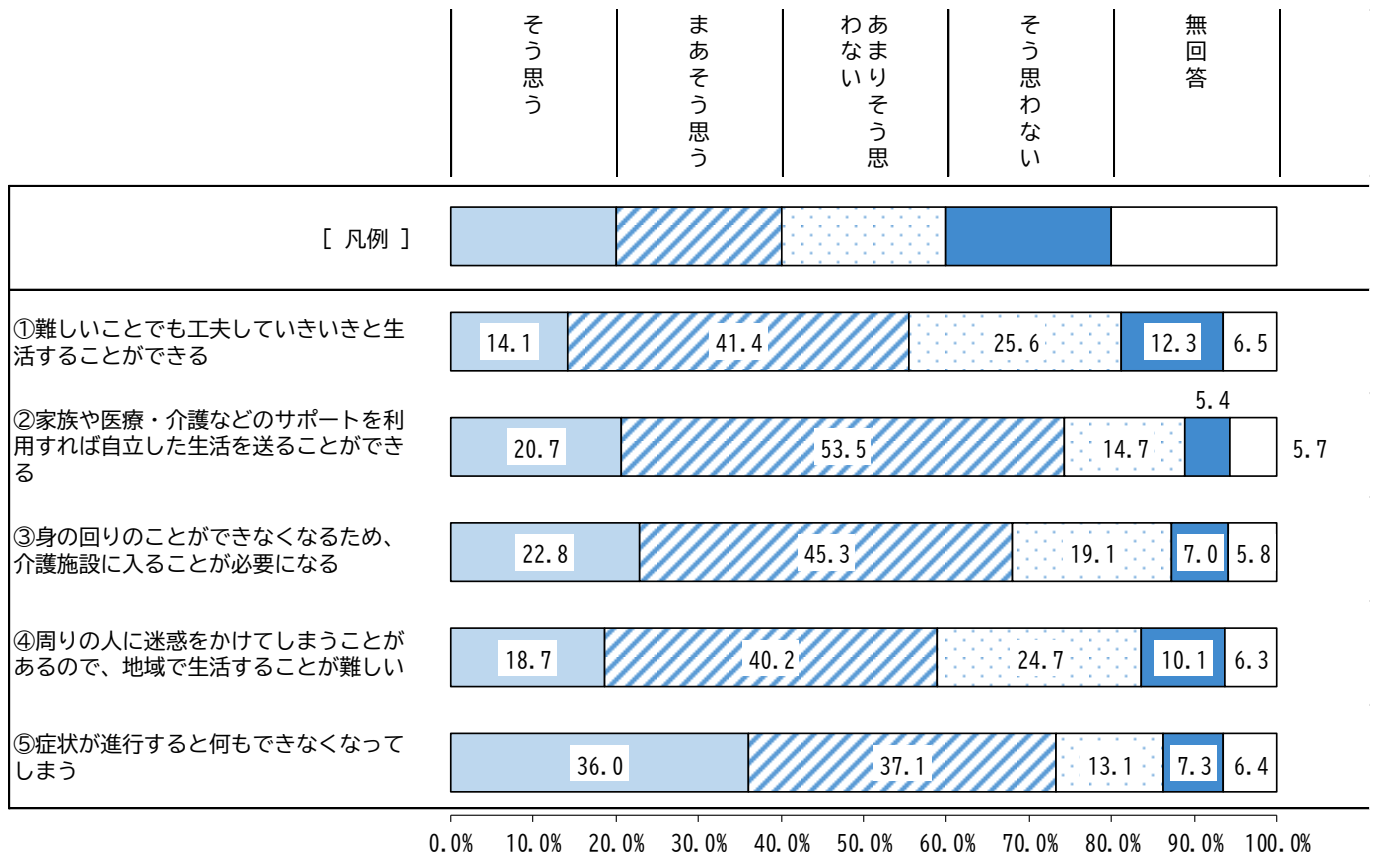
	今回調査 (n=2,455)	前回調査 (n=2,310)
運動器機能	17.3	17.2
転倒	36.0	34.8
閉じこもり	17.9	21.5
低栄養	1.8	1.3
口腔機能	25.2	25.5
認知機能	42.6	47.4
うつ	42.5	45.6

介護予防・日常生活圏域ニーズ調査の手引き（厚労省）における判定基準に基づき、該当する設問の回答内容から生活機能の低下のおそれがあると判定された高齢者をリスク該当者としています。

⑤認知症について

認知症についてのイメージでは、「家族や医療・介護などのサポートを利用すれば自立した生活を送ることができる」と考えている人が7割を超えています。一方で、「身の回りのことができなくなるため、介護施設に入ることが必要になる」と思っている人と、「症状が進行すると何もできなくなってしまう」と思っている人は6割を超えています。

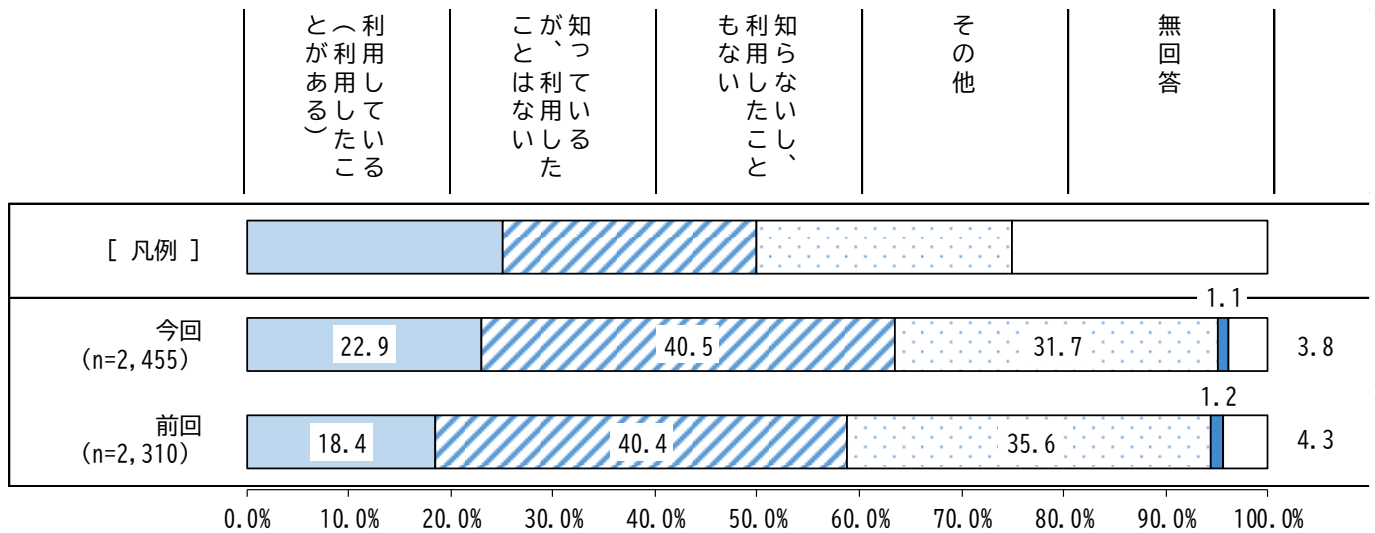
【認知症に対するイメージ】



⑥地域包括支援センターの認知・利用状況

地域包括支援センターを「利用している（利用したことがある）」が前回の18.4%から22.9%に上昇しています。

【地域包括支援センターの認知・利用状況】



⑦介護が必要になったときに希望する生活

介護が必要となったときに希望する生活では、「介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい」が6割を超えています。前回調査との比較では、「特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい」が前回から大きく上昇しています。

【介護が必要になったときに希望する生活】

	今回調査 (n=2,455)	前回調査 (n=2,310)
1. 介護サービスを利用せずに、家族などに介護してもらいながら、自宅で暮らしたい	4.5%	6.9%
2. 介護サービスを利用しながら、できるだけ自宅で暮らしたい	63.3%	66.1%
3. 特別養護老人ホームなどの介護施設に入りたい	12.7%	8.2%
4. バリアフリー化された高齢者向け住宅などに住み替えて、在宅介護サービスを受けながら暮らしたい	3.6%	3.7%
5. 健康なうちから将来介護を受けられる老人ホームなどに入所したい	1.9%	1.6%
6. わからない	9.4%	9.7%
7. その他	0.6%	0.9%
無回答	4.1%	2.8%

(2) 在宅介護実態調査

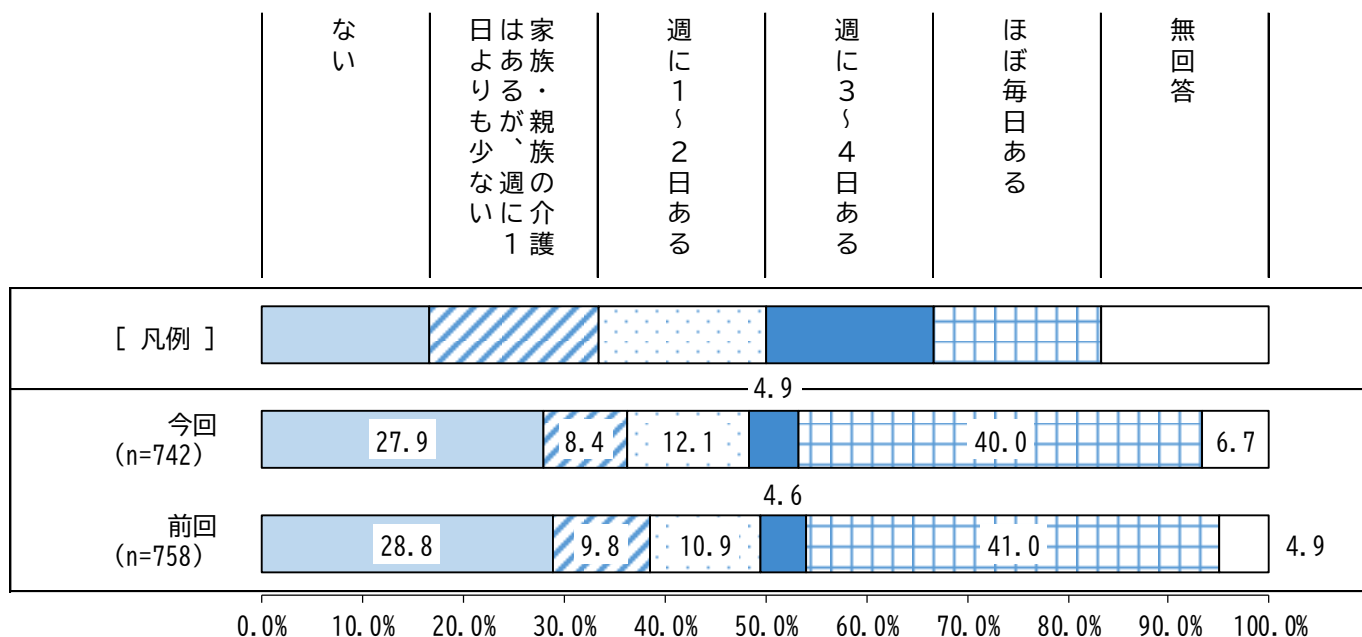
【調査概要】

対象者	三田市内に住む高齢者 1,200 人 (要支援・要介護認定を受けている方から無作為抽出)
実施期間	令和 8 年 1 月 2 1 日 (水) ~ 令和 8 年 2 月 1 2 日 (木)
実施方法	郵送配布、郵送回収または WEB 回収 (回収率向上のための礼状兼督促はがきを実施)
回収状況	配布数：1,200 件 有効回収数：742 件 (郵送：672 件、WEB：70 件) 有効回答率：61.8%

① 家族・親族からの介護

家族・親族からの介護が「ほぼ毎日ある」が40.0%で最も多くなっています。

【家族・親族からの介護の頻度】



② 主な介護者が不安に感じる介護

主な介護者が不安に感じる介護では、夜間の排泄が最も高く、前回調査からも割合が上昇しています。上位5つに入る項目は前回から変化がありませんでしたが、順番は前回から変化しています。特に、認知症への対応は、前は27.6%で2位でしたが、今回は21.0%で5位となっています。

<今回結果>

全体	主な介護者が不安に感じる介護	割合
1	夜間の排泄	27.2
2	外出の付き添い・送迎等	26.4
3	入浴・洗身	23.9
4	日中の排泄	22.9
5	認知症への対応	21.0

(n=485)

<前回結果>

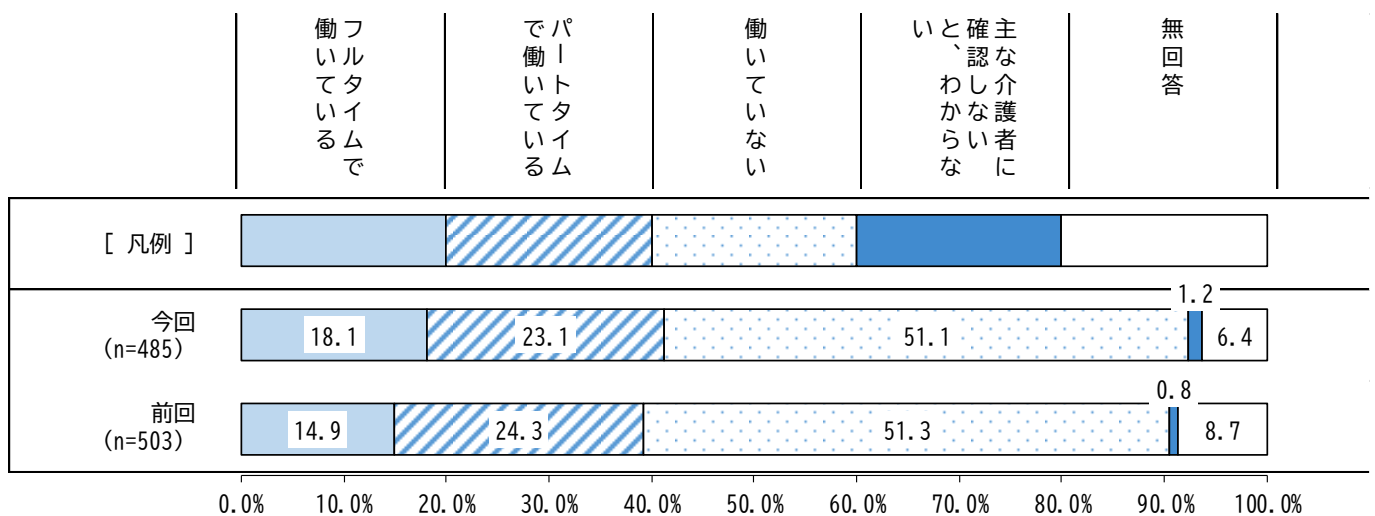
全体	主な介護者が不安に感じる介護	割合
1	外出の付き添い、送迎等	28.8
2	認知症状への対応	27.6
3	入浴・洗身	26.8
4	夜間の排泄	26.0
5	日中の排泄	21.3

(n=503)

③ 主な介護者の勤務形態

「フルタイムで働いている」が18.1%、「パートタイムで働いている」が23.1%となっています。「フルタイムで働いている」の比率が前回の14.9%から上昇しています。

【主な介護者の勤務形態】



④ 仕事と介護の両立

介護休業・介護休暇等の制度の充実が前回に引き続き、最も比率が高くなっています。前回は3割以上の人を選択し2番目に高かった制度を利用しやすい職場づくりは、今回の結果では2割を下回り、順位も4位となっています。

<今回結果>

全体	仕事と介護の両立に効果がある支援	割合
1	介護休業・介護休暇等の制度の充実	31.0
2	労働時間の柔軟な選択	27.0
3	介護をしている従業員への経済的な支援	22.5
4	制度を利用しやすい職場づくり	19.0

(n=200)

<前回結果>

全体	仕事と介護の両立に効果がある支援	割合
1	介護休業・介護休暇等の制度の充実	32.5
2	制度を利用しやすい職場づくり	30.5
3	労働時間の柔軟な選択	26.9
4	介護をしている従業員への経済的な支援	25.9

(n=197)

(3) 介護保険サービス提供事業者調査・ケアマネジャー調査

【調査概要】

調査種類	事業所調査	ケアマネジャー調査
対象者	市内の介護保険サービス提供事業者	市内の居宅介護支援事業所・地域包括支援センターに所属するケアマネジャー
実施期間	令和8年2月2日（月）～令和8年2月26日（木）	
実施方法	WEBによる配布、回収	
回収状況	配布数：159件 有効回収数：104件 有効回答率：65.4%	配布数：98件 有効回収数：68件 有効回答率：69.4%

① 地域に不足しているサービス

三輪北・小野・高平圏域では、事業所、ケアマネジャー共に、不足しているサービスがあると回答した割合が6圏域の中で最も多くなっています。

事業所、ケアマネジャー共に不足していると回答した割合が多いサービスは、「訪問介護」「介護予防訪問介護相当サービス（現行相当）」となっています。

【不足しているサービスがあると回答した割合】

上段：事業所調査（前回調査）
下段：ケアマネジャー調査（前回調査）
単位：%

		介護サービス	介護予防サービス	総合事業	保険外サービス
三田・三輪南	事	26.7 (28.7)	11.4 (12.9)	10.5 (11.9)	-
	ケ	27.9 (46.5)	17.6 (22.5)	19.1 (23.9)	35.3 (42.3)
三輪北・小野・高平	事	36.2 (40.6)	22.9 (18.8)	18.1 (16.8)	-
	ケ	47.1 (60.6)	30.9 (40.8)	26.5 (28.2)	48.5 (60.6)
広野・本庄	事	33.3 (34.7)	21.0 (16.8)	16.2 (14.9)	-
	ケ	36.8 (49.3)	25.0 (25.4)	23.5 (22.5)	41.2 (50.7)
藍	事	33.3 (35.6)	21.0 (17.8)	15.2 (14.9)	-
	ケ	39.7 (52.1)	26.5 (25.4)	23.5 (22.5)	38.2 (49.3)
フラワー	事	25.7 (27.7)	11.4 (11.9)	11.4 (11.9)	-
	ケ	29.4 (45.1)	17.6 (14.1)	17.6 (18.3)	26.5 (40.8)
ウッディ・カルチャー	事	26.7 (29.7)	12.4 (14.9)	12.4 (12.9)	-
	ケ	27.9 (45.1)	19.1 (18.3)	25.0 (19.7)	36.8 (47.9)

※6圏域の中で割合が多いものに網掛けをしています。

【特に不足しているサービス】

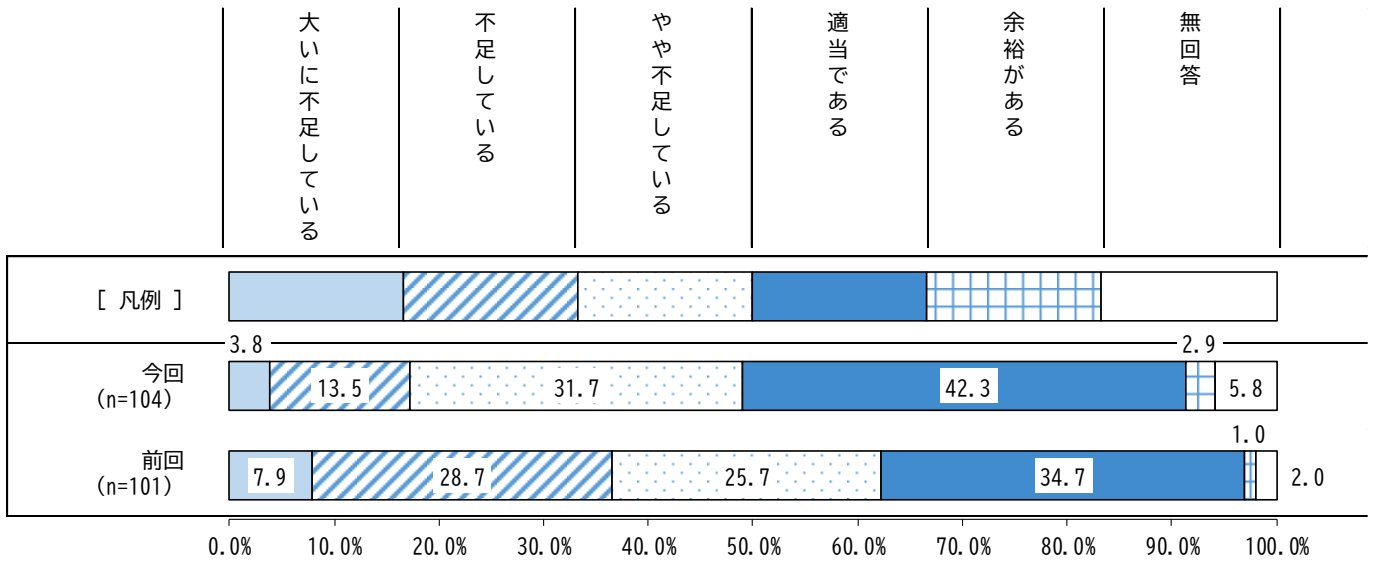
		介護サービス	介護予防サービス	総合事業	保険外サービス
三田・三輪南	事	訪問介護		通所型サービス・活動B（住民主体）	-
	ケ		介護予防認知症対応型通所介護	介護予防訪問介護相当サービス（現行相当）	ゴミ出し
三輪北・小野・高平	事	訪問介護	介護予防訪問入浴介護・ 介護予防訪問リハビリテーション	介護予防訪問介護相当サービス（現行相当）	-
	ケ		介護予防訪問リハビリテーション		ゴミ出し
広野・本庄	事	訪問介護	介護予防訪問入浴介護・ 介護予防訪問リハビリテーション	介護予防訪問介護相当サービス（現行相当）	-
	ケ		介護予防認知症対応型通所介護・ 介護予防訪問リハビリテーション		外出同行（通院、買い物など）
藍	事	訪問介護	介護予防通所リハビリテーション	介護予防訪問介護相当サービス（現行相当）	-
	ケ		介護予防認知症対応型通所介護		外出同行（通院、買い物など）
フラワー	事	訪問入浴介護		介護予防訪問介護相当サービス（現行相当）	-
	ケ	訪問介護・ 訪問入浴介護	介護予防認知症対応型通所介護		外出同行（通院、買い物など）
ウッディ・カルチャー	事	訪問入浴介護		介護予防訪問介護相当サービス（現行相当）	-
	ケ	訪問介護	介護予防認知症対応型通所介護		外出同行（通院、買い物など）・ゴミ出し

② 人材確保・育成

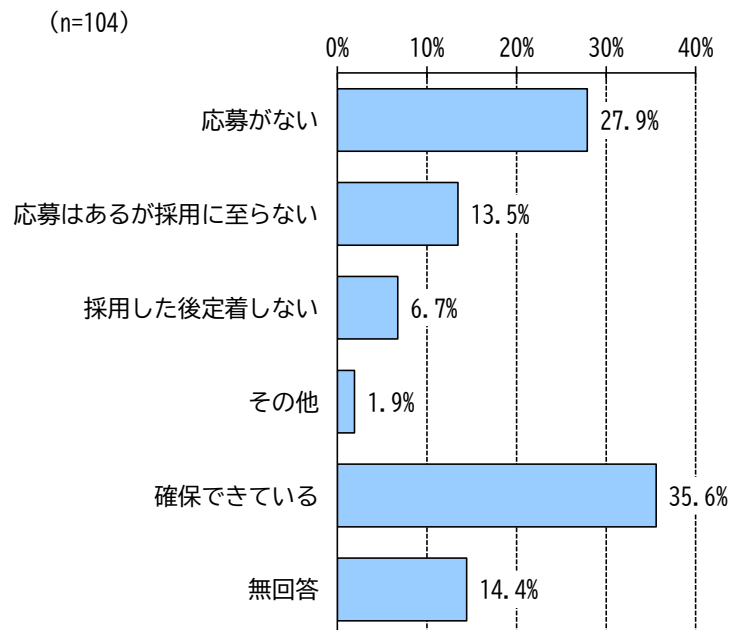
従業員の過不足状況について、「適当である」は42.3%となっており、「やや不足している」「不足している」「大いに不足している」を合わせた“不足している”は49.0%となっています。依然として半数ほどの事業所が人手不足を感じているものの、前回調査時よりは改善がみられます。

ケアマネジャーの5割以上が担当利用者数に負担を感じている状況ではありますが、前回調査時よりは比率が低下しています。

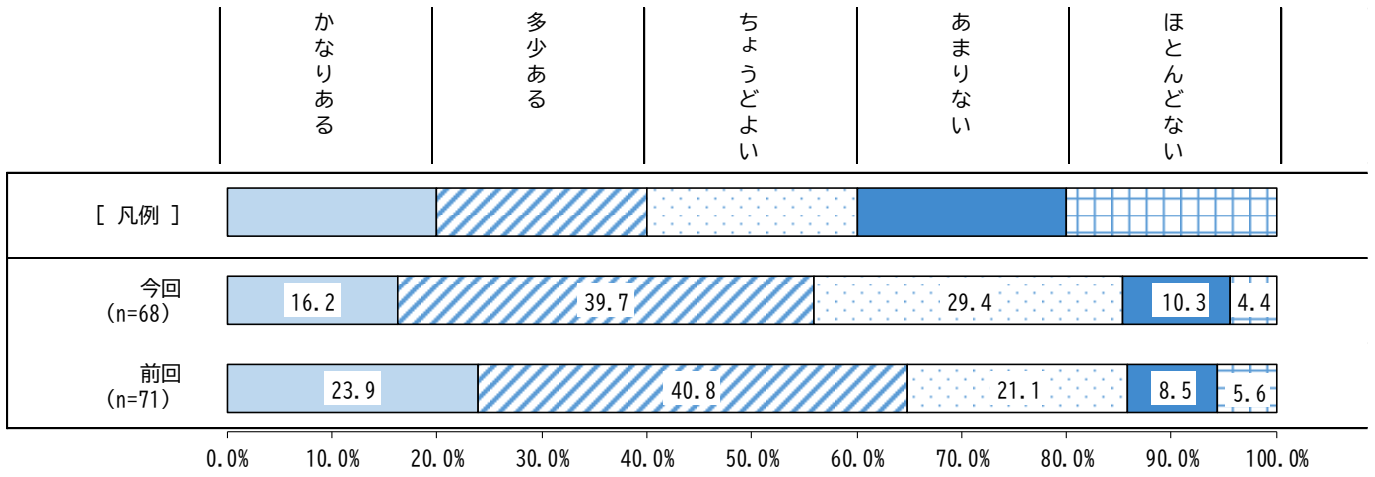
【従業員の過不足状況(事業所調査)】



【人材を確保できていない理由(事業所調査)】



【利用者の負担感(ケアマネ調査)】



認知症支援

事業所においては、症状の特性や重度化への対応、職員のスキルアップが課題となっています。

また、ケアマネジャーから見た認知症高齢者への必要な支援として、認知症の人が社会参加できる居場所が最も多く、認知症の人を支援する介護保険サービスの増加と認知症全般について相談できる専門の窓口も半数を超えています。

【認知症の方への対応での課題(事業所調査)】

	認知症の方への対応での課題	割合
1	症状の特性に応じた対応	63.5
2	症状の重度化への対応	51.9
3	認知症への対応に関する職員のスキルアップ	36.5
4	認知症の早期診断	35.6
5	権利擁護に関する対応	34.6

(n=104)

【認知症高齢者への支援で必要なこと(ケアマネ調査)】

	認知症高齢者への支援で必要なこと	割合
1	認知症の人が社会参加できる居場所（認知症カフェ等）	52.9
2	認知症の人を支援する介護保険サービスの増加	51.5
	認知症全般について相談できる専門の窓口	
4	認知症の家族を介護している人への家族教室（つどい）などの開催	48.5
5	認知症についての正しい知識を普及するための啓発活動	47.1

(n=68)